

読解

利休七則

1. 茶は服のよきように点て
2. 炭は湯の沸くように置き
3. 花は野にあるように生け
4. 夏は涼しく冬暖かに
5. 刻限は早めに
6. 降らずとも傘の用意
7. 相客に心せよ

この利休七則は今日に至るまで、茶道におけるもっとも原則的な教えとして、代々変わることなく受け継がれてきた。この言葉が単なる表面的な意味だけにとどまるのではなく、もっと深い、幅広い意味があったことを理解しなければならない。

すなわち茶道が単なる芸能や遊びごとと違って、もっと高い道德性と倫理性を持つということ。

七則の意味は、

1. 事をおこなうには、相手の気持ち・状況を考えなさい
2. 準備・段取りは要となるツボを押さえなさい
3. 物事の本質を見極めて、より簡潔に表現しなさい
4. おもてなしは、相手を想う心を持ちなさい。五感を使って、工夫しなさい
5. 常に自分の中の時計の針を進めておきなさい
6. 不測の事態を想定しておきなさい
7. 同じ場所に居合わせたら、お互いに気遣い、思いやる心を持ちなさい

ふりがな付き (重要語彙)

りきゅうしちそく 利休七則

1. 茶は服のよきように点て
2. 炭は湯の沸くように置き
3. 花は野にあるように生け
4. 夏は涼しく冬暖かに
5. 刻限は早めに
6. 降らずとも傘の用意
7. 相客に心せよ

この利休七則は今日に至るまで、茶道におけるもっとも原則的な教えとして、代々
変わることなく受け継がれてきた。この言葉が単なる表面的な意味だけにとどま
るのではなく、もっと深い、幅広い意味があったことを理解しなければならない。

すなわち茶道が単なる芸能や遊びごとと違って、もっと高い道徳性と倫理性を持つ
ということ。

七則の意味は、

1. 事をおこなうには、相手の気持ち・状況を考えなさい
2. 準備・段取りは要となるツボを押さえなさい
3. 物事の本質を見極めて、より簡潔に表現しなさい
4. おもてなしは、相手を想う心を持ちなさい。五感を使って、工夫しなさい
5. 常に自分の中の時計の針を進めておきなさい
6. 不測の事態を想定しておきなさい
7. 同じ場所に居合わせたら、お互いに気遣い、思いやる心を持ちなさい

重要語彙

- 利休七則：千利休が作った茶道の7つの基本ルール
- ～に至る：そこまで行く、そこに達する
- ～における：～の中での、～の場合の
- 原則的な：基本的な、一般的な
- 代々：世代から世代へと
- 受け継がれる：引き継がれて今まで伝わる
- ～にとどまるのではなく：それだけで終わらず
- すなわち：つまり、言い換えると
- ～ごと：物事全体、すべて、～という活動や行為
- 道徳性：道徳に関する性質
- 倫理性：倫理に関する性質
- 段取り：物事の手順や準備
- 要：最も大切な部分、中心
- ツボ：重要なポイント、急所
- 見極める：よく観察して判断する
- より：もっと
- おもてなし：客をよく扱うこと
- 五感：見る、聞く、嗅ぐ、味わう、触れるの5つの感覚
- 不測の事態：予想できない出来事
- 居合わせる：その場に一緒にいる
- 思いやる：相手の気持ちを考える